

# せき損センターだより No.83

理 念

「受診してよかった」と思われる病院でありたい

鹿児島県 桜島

基本方針

- 1 脊髄損傷の専門病院であることを自覚し、  
救命救急の初期治療から社会復帰まで一貫した医療を行います
- 2 患者さんの人権を尊重した医療を実現します
- 3 安全で良質な医療を行います
- 4 高度な脊髄損傷医療の普及に努めます

## 第44回せき損センター夏期セミナー

副院長 河野 修



当センター主催の夏期セミナーも今年で44回を迎えました。今年は梅雨も早々に明けて、もはや当たり前のようになった猛暑日が続く中、7月19日に当センターの多目的ホールで行うことができました。今年には54名の先生方に参加していただきましたが、その内訳をみると、九大整形外科関連施設からはもちろんのこと、佐賀大学関連、熊本大学関連、旭川医科大学関連の先生方にもご参加いただき大いに盛り上げて頂きました。当院で研修を受けて巣立って行った若手脊椎外科医も宮崎や鹿児島から参加して会を盛り上げてくれて頼もしい限りでした。

特別講演の講師には、江南厚生病院 統括副院長・脊椎脊髄センター長の 金村 徳相 先生をお招きしました。脊椎外科分野の中でも特に脊柱変形では常に日本のトップランナーであり続けている金村先生ですが、ナビゲーションやロボット手術などを日本でも真っ先に取り入れて最先端の治療に取り組んでおられ、それらを駆使して困難な腰仙部の前方手術を含めた前後合併手術に果敢に挑まれる姿勢は非常に印象的でした。もっと良い治療を求めてチャレンジする姿勢は参加者一同感銘を受けていました。また金村先生は、日本整形外科学会や日本脊椎脊髄病学会が主導して行っているレジストリーシステムの責任者でもあるので、その意義や今後のデータ利用の方向性などをお話していただきました。特別講演の前後には症例検討会を行い若手脊椎外科医が合計9題の演題を発表してくれましたが、金村先生からも積極的なアドバイスや励ましを頂き、若手とベテランが一緒になって大変盛り上がった会となりました。

当センターは整形外科と泌尿器科の専門スタッフ数が他の病院に比べて多いのが特徴であり、ベテラン、中堅、若手とバランスを取りながら新陳代謝を図っています。整形外科に関しては現在、指導医が5名在籍しており、9名の非指導医とともに症例を担当しています。高水準の脊椎外科治療を行いながら、若手は手厚い指導を受けることができるというバランスの良い環境が整っています。常勤医として当センターを支えるスタッフばかりではなく、2～3年間当センターで修行をした後に関連病院の脊椎外科チーフとして活躍している医師もいます。短期間で実力をつけたい若手には最高の環境が整っていますので、脊椎外科に興味がある若手がいたら当センターを勧めてみてください。やる気がある若手と共に成長したいと思っていますのでよろしくお祈いします。



椎間板由来の慢性腰痛症に対する臨床治験が継続中です！



整形外科部長 益田宗彰

総合せき損センターでは、椎間板由来の慢性腰痛症に対する新薬の臨床治験を現在も継続しております。AMG0103 とコードされたこの新薬は、単一の椎間板に起因する腰痛に対し、当該椎間板に直接注射投与することで腰痛の軽減を図るというものです。これまで当センターでは、現在行っている二重盲検試験に先立つセンチネル症例（完全な実薬投与）を含め、計9例の患者さんをエントリーしてきました。

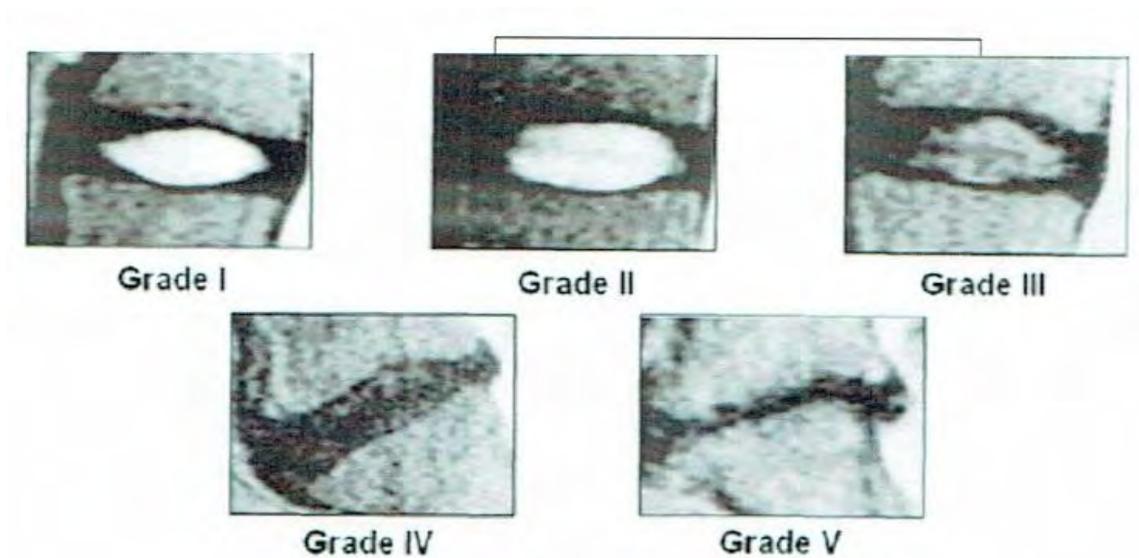
本治験は開始当初、参加のクライテリアとして「MRI 上単一椎間のみの変性を有するもの」という基準がかなり厳しかったため、なかなか条件に合致する方が少なく、目標症例数への到達に当初よりも期間を要していることから、現在は組み入れ期間を本年11月30日まで延長し、クライテリアも「複数の椎間板に変性があっても疼痛の原因となる椎間板変性が単一であり、Pfarrmann（ファーマン）分類（図1）で grade 3 もしくは 4 であれば本治験の対象として良い」と、若干の条件緩和がなされました。ただし、痛みの原因となっている椎間板の検索には、椎間板造影や椎間板ブロックを行い、当該高位を決定することが必要とされています。若干敷居の高い本治験ですが、実際に投与された患者さん（実薬かプラセボかは現時点では明らかにはされておきませんが）の反応を見る限りでは、比較的良好な痛みの改善が認められており、もしレスポonderに実薬が投与されていたということであれば、かなり実臨床においても期待が持たれるのではないかという感触を得ています。

また、二重盲検試験も実薬とプラセボの比率が2：1に設定されているので、慢性的な腰痛に悩まされている患者さんにとっては、1/2以上の確率で実薬が用いられることになるので、トライしていただく価値があるものと考えています。前回の本稿でもお伝えしておりますが、ご高齢の方では、変性椎間の数が多くなることから、当該高位の同定が難しくなることが予想されるため、比較的若年～壮年層で慢性の腰痛にお悩みの患者さんがいらっしゃいましたら、まずはMRI撮影を兼ね、総合せき損センターまでご相談いただければ幸いに存じます。

\* 治験に関する問い合わせ先 \*

総合せき損センター 0948-24-7500 (代表) 治験担当：三角、住谷、有吉

図1 〈Pfirschmann スコア〉



([https://operativeneurosurgery.com/doku.php?id=pfirschmann\\_grading\\_system](https://operativeneurosurgery.com/doku.php?id=pfirschmann_grading_system))

# 放射線部の検査機器紹介



診療放射線技師 垣本 和保



今回は当院の放射線部で主に使用している検査機器をご紹介します。すべての検査機器はデジタル化されており、検査終了後に画像を作成すると医師は院内のすべての端末で画像の閲覧ができます。昔のようにフィルムを持ち運ぶ手間もなくなり医師の画像確認までがスムーズになりました。(かなり前の話ですが、せき損センターでは院内を巡回するロボットがフィルムを運んでいた時代もありました。)

せき損センターは脊椎脊髄疾患の患者さんを対象とした専門病院なので、行われる検査のほとんどが頸椎、胸椎、腰椎となっています。痛みや痺れ、麻痺などの原因を探る上で画像検査は欠かせないものとなっています。しかしながら手が上がらない方、足の力が弱い方、また痛みを伴う疾患をお持ちの方には検査が苦痛に感じられると思います。その様な方々の画像検査を遂行できますように、私たち診療放射線技師は工夫と配慮を持って取り組んでいます。

## 主な検査機器

一般撮影装置	3台
CT装置	1台
MRI装置	1台
骨密度測定装置	1台
透視装置	2台

## 使用機器

### 一般撮影装置（島津製作所 RADspeed Pro）



FPD(Flat Panel Detector)と CR (Computed Radiography) の使用によりフィルムレス化されました。立位読み取り装置、全脊椎撮影を行える FPD もあります。

### CT 装置



### (キヤノンメディカル社製 80 列 Aquilion ONE SPECTRAL)

様々な断面での作成が可能であり、病体の把握がよりの確にできます。特に変形した脊椎の形態把握に大きく力を発揮します。

### MRI 装置（PHILIPS 社製 1.5T Ingenia Ambition）



一般の X 線検査では描出不可能な椎間板、靭帯、炎症、腫瘍等をとらえることが可能です。

### 骨密度測定装置（G E 社製 Lunar Idxa）



DEXA 法を用いて腰椎、大腿部（大腿骨頸部）の骨密度を 10 分程度で測定します。

### 多目的透視装置（キヤノンメディカル社製 Ultimax-i）



ミエログラフィー検査(脊髄腔検査)や神経根ブロック検査等に使用しています。装置の動きに自由度が大きく、体を動かさない緊急時の撮影にも使用しています。

### 泌尿器透視装置（キヤノンメディカル社製 ZEXIRA）



泌尿器科領域(腎臓、膀胱、尿管など)の造影検査に使用しています。



医用工学研究室 寺師良輝

## ～福祉用具の豆知識～

### シルバーカーと歩行車

筆者が消費者の立場で歩行車を自費購入する機会があり、その際シルバーカーと歩行車について学んだ内容を整理して記していくこととします。

#### シルバーカーと歩行車

シルバーカー（図1）と歩行車（図3）は外観が似ています。『シルバーカーというのは、SG規格（製品安全協会）では、「自立歩行が可能な高齢者が、外出の際に歩行や品物の運搬及び休息に用いる車輪が四輪以上の歩行補助車」と定義しています。すなわち、シルバーカーは、歩行できない人が使用する歩行補助用具ではなく、歩行可能な人が運搬用に使用するショッピングカー及び、休憩するためのいすが付属している補助車ということができます。シルバーカーと歩行器や歩行車の違いは、シルバーカーの支持面積中に身体を入れることができないのでグリップへの体重負荷が不十分になり、歩行を安定させるための支持が足りないことにあります。』とあります。（テクノエイド協会「福祉用具シリーズ VOL.12 “歩行補助用具の活用”）このように違いを文字で説明すると難しいのですが、素晴らしいパフォーマンスで説明している動画が youtube にありました（図4,5）。つまり「シルバーカーは転倒する」「歩行車は転倒しない」と簡単に説明することができます。

#### シルバーカー型歩行車

さらにシルバーカーと歩行車の機能を兼ね備えた「シルバーカー型歩行車」なるものもあります。株式会社島製作所が2002年に開発した「シンフォニーS P（図2）」という商品は、

当初、シルバーカーとして開発したモノが、貸与事業者やレンタル卸会社から「介護保険の歩行器でいける」との後押しがあり、レンタルに耐える強度を持ち合わせる改良を加え、介護保険貸与マークのついた歩行車としてデビューさせた商品です。その後、各社が、そのようなタイプの歩行車の開発を追随していくこととなったようです。

#### シルバーカーと歩行車の市場動向

シルバーカーと歩行車の工場出荷額と65歳以上人口の推移を図6に示しています。65歳以上人口と歩行車の工場出荷額は増加していますが、シルバーカーの工場出荷額は横ばいとなっています。歩行車の増分のかなりの部分をシルバーカー型歩行車が占めていると見られています。

#### 入手方法

シルバーカーは自費購入となり、主にホームセンターで購入することができます。シルバーカー型歩行車を含む歩行車は自費購入のほか、介護保険の歩行器としてレンタルすることもできるので、ケアマネージャーに相談のうえ指定福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与事業者で利用することができます。シルバーカーとシルバーカー型歩行車は外観で判別しにくいので、販売店で確認を取るようにしましょう。筆者は介護保険の対象でない自費購入なので制限なくカッコいい歩行車を探し求めたところ、デンマーク by ACRE 社の歩行車にたどりつきました（図7）。福岡県では大丸福岡天神店だけが取扱店となっており現物を試し購入しました。なお、通信販売でも購入できます。



図1 シルバーカー



図2 シルバーカー型歩行車



図3 歩行車



図4 シルバーカーは転倒する



図5 歩行車は転倒しない



図6 シルバーカー・歩行車の工場出荷額の推移



図7 by ACRE社カーボン・ウルトラライト

図1.3 : 福祉機器選び方・使い方テキスト・歩行器等補助用品編 [https://hcrijapan.org/pdf/how\\_to\\_cane2023.pdf](https://hcrijapan.org/pdf/how_to_cane2023.pdf) から転載  
 図2 : 島製作所・歩行車 <https://www.shima-seisakusyo.com/products/walker/> から転載  
 図4.5 : 歩行器とシルバーカーは●●が違う!! <https://www.youtube.com/watch?v=DkIqw0fc03A> から転載  
 図6 : 歩行車とシルバーカーの市場動向について(川窪伸也,日本生活支援工学会誌Vol.23 No.1 2023)のデータを基にグラフ化  
 図7 : by ACRE歩行車 <https://www.wheelingtokyo.com/product-page/gb> から転載

# 外来担当表

令和7年4月1日～

曜日	月	火	水	木	金
整形外科 (再診のみ予約制) リハ科	幸	室谷	益田	幸	益田
	小野	黒石	甲斐	室谷	黒石
	久保田	萩原	久保田	萩原	久保田
	畑	畑	入江	入江	甲斐
再診のみ					久保田
泌尿器科 (再診のみ予約制)	高橋	今田	高橋	今田	高橋
	今田	高橋	今田	高橋	今田
女性泌尿器科外来	毎週/火、木曜日 受付/13:00～15:00				

○ 診療科 整形外科 泌尿器科 リハビリテーション科	<b>診療受付時間</b> (月曜日から金曜日) 新患 8:30～10:30 再来 8:30～11:30 (泌尿器科は11:00まで)
	<b>休診日</b> 土・日曜日及び祝日 年末年始(12月29～1月3日)
	<b>宿泊施設</b> 遠方からの受診者宿泊施設として厚生棟(はなみずき)をご用意しております。ご利用の方は総務課までお申し出ください。 (申込受付時間: 平日8:30～17:00)

- ◎泌尿器科は再来のみ時間帯予約制です。 TEL0948-24-7500 (14～16時予約・変更受付)
- ◎整形外科は再来のみ時間帯予約制です。 TEL0948-24-7500 (14～16時予約・変更受付)

### 周辺地図

福岡方面  
からお越しの方

JR+西鉄バスの場合

- JR「博多駅」→(福北ゆたか線/快速40分)→「新飯塚駅」下車
- 西鉄バス「新飯塚駅」→(飯塚行き等/10分)→「飯塚バスターミナル」にて乗換  
「飯塚バスターミナル」→(伊川温泉行き/20分)→「せき損センター」下車  
(坂の下行き/20分)→「東伊川」下車→徒歩10分

北九州方面  
からお越しの方

JR+西鉄バスの場合

- JR「小倉駅」→(鹿児島本線/20分)→「折尾駅」にて乗換(新飯塚駅直通も有)
- 「折尾駅」→(福北ゆたか線/40分)→「新飯塚駅」にて下車
- 西鉄バス「新飯塚駅」→(飯塚行き等/10分)→「飯塚バスターミナル」にて乗換  
「飯塚バスターミナル」→(伊川温泉行き/20分)→「せき損センター」下車  
(坂の下行き/20分)→「東伊川」下車→徒歩10分



SPINAL INJURIES CENTER  
独立行政法人労働者健康安全機構  
総合せき損センター

〒820-8508 福岡県飯塚市伊岐須550-4  
TEL0948-24-7500 FAX0948-29-1065  
ホームページアドレス <https://sekihonh.johas.go.jp/>  
発行責任者: 院長 前田 健